

あるが、實物に面會するのが今日が始めてである。後夜は、月さ大懸座のミザルを見た。月は七日位の形である。タイコ山や其他の山々が美しい。白光の中に見える海洋面も、平坦な平原のやうに見える。

ミザルのお供のアルコルには、一時に依つて、前から馴染んでゐるが、ミザルの伴星を實見するのは始めてである。

× × ×

四十時は絶えず空さへ晴れて居れば、活動してゐる。背は、ロシア人のストルーフェ氏、それから後は、パンビースブルク氏が用ゐてゐられるやうである。

ブルースの堂内に立つて教授パーナードを偲ぶ。晴れた夜には、何時間もなく此處に立つてもつて鼻歌を唱ひながら宇宙の組立を研究し、天の河を寫したパーナード。

パンビー氏は、ベルギーの亡命者である。二十日の夕方、パンビー氏の裏庭の芝生で、日本人十五人あまりが集り、パンビー夫妻とその三人の娘さん。リー教授夫妻を交へて日本日を開く。

御馳走は、山本夫人並びに、腕に覚えのある學生諸君が汗を滴して料理されたスシスキヤキである。材料はわざ／＼シカゴから取寄せたものである。

フランス系のパンビー夫人は、よく日本人の型にある顔をしてゐる美しい方——その邊の木を枝をへし折つた速製の木箸を巧みに使用し乍らスシを召される。地面を少し深く掘りさげて、パンビー教授二人の小さい令嬢に遊戯室から石の寄贈を受け、俄つくりのかま

ごをつくる。夕日は斜に射す。リー教授は、盛にスキヤキを賞玩せらる。

その夕べである。御自分の考案になつた面白いつくりの屋後でパン教授と問答をする。

『先生は、御若い時から天文に興味をお持ちになつてゐたのですか？』

え、少年の頃から、よく空を仰いでゐたものでした。私の父は美術家でもつて、彼に指導されて其方を學んだのでした。私の親戚には、彫刻家としてベルギーで相當に名の知られた人もあります。

私の少年時代の空想は、ベルギーに世界一の望遠鏡を備えつけて、私が、それを使用するさ云ふことでした。

元來、ヤーキースへ來ると云ふ考など毛頭なかつたのでしたが、運命です。不思議な運命です。國が御承知の通りドイツのために、ああ云ふ風に蹂躪され、私の身寄の者すら、無残にも故なくドイツ軍に殺されたのです。

そんなわけで、私は、此國に參りました。そして、小さい望遠鏡でも使用させてもらへばいいと思つてゐた處が、案外にも、世界最大の四十時を使用することになつたのです。

『パン教授は、彼を仰いで立つ二人の若い日本人學生を、なつかしさうな優しい目でみつめながら——』

「一つのことゝに、急がずに、いつもいつも心を注いでゐることです。側目をふらずに——」

まさにも。するさいつか志が遂げられるものです。一つのことゝに深く深く突き進んで行きなさいよ。』

頬髯に蔽はれたいかにも、お父さんらしい教授の顔が輝く。

夕暗は、あたりを閉ぢ、大天文臺の屋上に、月さ木星さが青白く輝き出した。

## ○觀測部報告

八月二十六日の月蝕 京都大學天文臺にて觀測。當日は午後より東天に雲あり六時五十一分の初虧は雲の爲めに全く見得なかつたが漸次に良好となり七時二十五分に到り蝕けたる月雲間に出現し以後復圓まで快晴であつた。約二十名の會員大の望遠鏡にて觀測し復圓時には各自クロノメトルにより時間を求めんとしたが不幸本影は影さまざらばしき Mare Australe に終つた爲に正確なる時間を得られなかつた。

月出現後十時反射望遠鏡により連續的に間をおいて九枚の寫眞を得た。其の一部は口繪に爲つて居る。其の内一枚は引延してある。寫眞に於て月面上の地球影の運動及び復圓後も多少影の如きものを殘して居るのに注意せられたい。

寫眞は十時の直接焦點に於て得た爲に直徑は原板上で十二ミリに過ぎない(十時の焦點距離五十七時)。口径は明る過ぎる爲に六時半までイルフォード赤札乾板に手に行ひ得る最短の〇・一乃至〇・三秒の露出を與えた。

津田氏其他より報告があつたが後にまごめて報告す。

觀測記録を有す諸氏は至急送付されたし。